

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト

令和2年度 高知の授業づくり講座 英語 ～香美市立大宮小学校～

【教材研究会】令和2年 9月 14日 【授業研究会】令和2年 11月 24日

授業研究会では、文部科学省初等中等教育局 直山木綿子 視学官からご助言をいただきました。

英語科の3つの視点で、令和2年度の大宮小学校授業づくり講座における学びをまとめました。



1 言語活動を通した単元づくり ～指導と評価の一体化～

【提案授業のポイント】

- ・友達、ALTと相手を替え、単元を通して言語活動が繰り返されている。
- ・1時間の中でも、中間交流を設定し、言語活動が繰り返されている。
- ・3段階で評価が計画されている。
 - ① 形成的評価(言い慣れ・聞き慣れ) 第1～3時
 - ② 【知・技】の評価 第4～5時
 - ③ 【思・判・表】【態度】の評価 第6～8時
- ※ ②でc評価の児童は、③の評価場面でも【知・技】の変容を見取り、評価する。

【直山視学官より】

- 言語活動の目的・場面・状況がきちんと設定されているため、子供が目的に向けて思考を働かせる姿が見られた。
- 中間交流で指導を入れることで、子供の発表の内容に変容が見られた。これが言語活動を「通して」ということである。
- 大宮小が作成した評価の資料(a, b, cの子供の具体的な姿、表現例、思・判・表の捉え等)は参加者の参考になるものである。このような具体を学校や学年で共有すること。
- 教師の説明を減らし、もっと言語活動の時間を確保すること。言語活動の中で子供に気付かせていくことが大切である。
- 「自分のことを知ってもらおう」という目的と、「行きたい国を紹介する」という言語活動にずれが見られた。子供にとって最適な目的を吟味すること。
- 目的を達成できたかを児童が判断するためには、発表を聞いたALTからの「あなたのこんなことが分かった。」というコメントをもらうとよい。ALTと目的を共有し、打合せをしておくこと。


大宮小学校の実践

～目標・指導と評価の一体化～

1. 児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価する。

学習したことの意義や価値を実感できるようにすること
○単元ゴールを児童とともに作り、単元でめざすことを共有

○授業や振り返りの時間・シートで、児童の良い点を評価し、次時への意欲付けをする。



2. 評価の場面や方法の工夫—指導の改善や学習の向上を図る。

学習の過程や成果を評価することで、指導の改善や児童の資質・能力の育成を図る。

～いつ、どこで、どのように評価するのか～

- 目標・指導と評価の一体化を目指した指導案作成
- 評価規準
- 単元計画、単元での評価計画
- 評価計画(年間)
- 評価方法の工夫
- 児童の反応をノートに記入
- ワークシート、振り返りシート・作品等
- タブレットによる相互評価、パフォーマンス評価

3. 組織的かつ計画的な取組の推進

学習評価の妥当性や信頼性を高める。

- 評価規準・評価基準の共有。
- 評価事例の蓄積・共有。

小中の接続の工夫をする。

- 小中9年間を系統的に指導
- CAN-DOリスト作成・見直し
- 小中のつながりが見える指導案
- 中学校教員が6年生の授業にT2で入る。

2 教材分析力の向上 ～教科書の有効活用～

【提案授業のポイント】

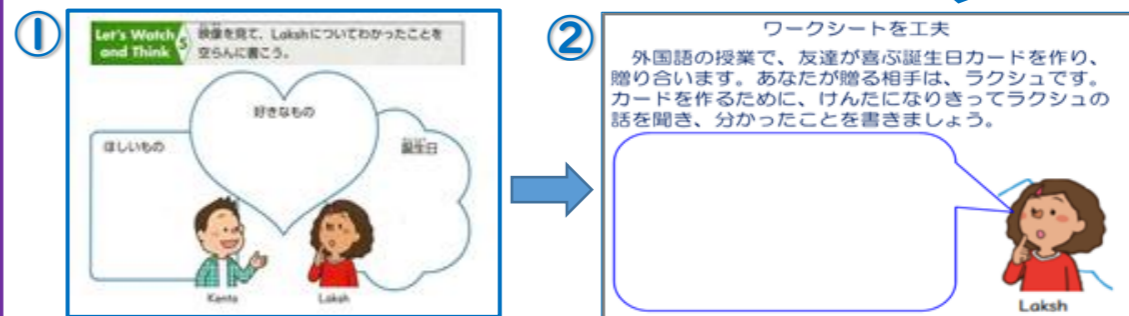
- ・教科書をなぞるから活用するへの転換
- 教科書の教材を活用しながら、子供と単元ゴールの活動を設定し、単元を構成している。
- 「新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり」p.18 参照

【直山視学官より】

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」事例1
・第5時「聞くこと」の【思・判・表】を評価する場合、教科書教材①のままでは評価できない。②のように工夫してワークシートを作成するとよい。

【直山視学官より】

・「聞くこと」の【思・判・表】を評価する場合、「何のために聞き取るのか」という目的・場面・状況の設定が必要である。何を聞き取るとよいかも子供に判断させる。教科書の教材やワークシートを工夫することも、教科書の有効活用である。



3 参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

【学んだこと・実践したいこと ～参加者アンケートで多かった意見・感想～】

- ① 目的・場面・状況の設定…言語活動と合った子供が本気になる目的の設定
- ② 「言語活動を通して」指導する…言語活動の時間の確保
中間評価で何を引き出し、価値付けるか
- ③ 指導と評価の一体化…評価に合ったワークシートの工夫
子供の具体的な姿でルーブリックを作成し、学校として評価に取り組む
- ④ 教科書の有効活用…目的・場面・状況を明確にした子供の事態に合った単元づくり

他にも、「教材研究会を受けて、目指す姿を児童と共有している。」「言語活動について校内研修を実施したい。」「このような小学校での学びを引き継ぎ、中学校でも指導していきたい。」「学校全体で研究に取り組む、若い先生を支え、講座を運営している組織力を参考にしたい。」という感想もいただきました。

授業研究会 ～単元構成～

第5学年 Unit6 「I want to go to Italy.」(Here we go! 5 光村図書) 授業者：福本 裕大 教諭

領域別目標	「話すこと[発表]」(ウ) 「聞くこと」(ウ)	
単元目標	相手に自分のことを知ってもらうために、自分が行きたい国とその理由について、内容を整理し自分の考えや気持ちなどをまとめて紹介することができる。また、必要な情報を聞き取り尋ね合ったり、言い慣れた表現を書き写したりすることができる。	
時	目 標	評 価 (評価方法)
1	世界の国々や地域、観光地の名称を言ったり聞いたりする。	・1～3時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2	世界の国でできることを伝える言い方に慣れ親しむ。	・児童の学習を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
3	自分が行きたい国について、伝えたり聞いたりする。	
4	自分が行きたい国とその国でできることについて、尋ねたり答えたりする。	聞くこと…【知・技】 (ワークシート)
5	自分が行きたい国とその理由等について、友達に紹介する。	話すこと[発表]…【知・技】 (行動観察、振り返りシート、タブレットの記録)
6	自分が行きたい国について、友達に観光ポスターを使って紹介する。	聞くこと…【思・判・表】【態度】 (ワークシート)
7	自分が行きたい国について、友達に観光ポスターを使って紹介する。	話すこと[発表]…【思・判・表】【態度】 (行動観察、振り返りシート、タブレットの記録)
8 (本時)	自分が行きたい国について、観光ポスターを使ってALTに伝えるようによりよい表現で紹介する。	話すこと[発表]…【思・判・表】【態度】 (行動観察、振り返りシート)

教材研究会を受けて ～変更点～

- ① 単元ゴールの活動における目的の明確化…何のためにALTに行きたい国を伝えるのか
→ 全単元 Unit5 「He can run fast. She can do kendama.」では、自分の身の回りの人のことについて知ってもらうために、ALTに紹介する活動を行った。「今度は自分のことを知ってもらいたい」という児童の声を聞いて、本単元の目的を「ALTに自分のことを知ってもらうために」と設定した。
- ② 話すこと[発表]の【知識・技能】を見取る活動の変更…[やり取り]の活動で見取るのか
→ [やり取り]ではなく、友達に行きたい国を紹介する[発表]の活動で見取る。(第5時)
- ③ [発表]の評価規準【思考・判断・表現】の捉えの明確化
→ 児童の具体的な姿として設定した。

自分のことを知ってもらうために、どんな情報を伝えればよいかを考えている【思考】。
また、聞き手からのコメントや質問から、さらに伝えたい内容は何かを判断し【判断】、
自分のことについてより具体的な内容を付け加える等内容を整理して話している【表現】。

